

薬物療法

薬物療法は、食事療法・運動療法を正しく行うことによって良い効果が得られます。

《飲み薬》

スルホニル 尿素剤 (SU剤)	オイグルコン		<ul style="list-style-type: none"> ●すい臓に働きかけてインスリンが出るようにする働きがあります。 ●自分のすい臓に、まだインスリンを出す力が残っているが、その量が十分でない人に使われます。
	グリミクロン		
	アマリール		
分泌促進剤 速効型 インスリン	ファステック		<ul style="list-style-type: none"> ●すい臓に働きかけてインスリンが出るようにする働きがあります。 ●飲んだ後、短時間でインスリンが分泌されるので、このお薬は<u>食事の直前に</u>飲んでください。
α グルコシターゼ 阻害剤	グルコバイ		<ul style="list-style-type: none"> ●小腸内での糖分の消化・吸収を遅らせることで、食後の急激な血糖の上昇を抑えます。 ●<u>食事の直前に</u>飲んでください。 ●飲み始めの頃におならの増加やお腹がはるがあります。
	ベイスン		
	セイブル		
チアゾリジン剤	アクトス		<ul style="list-style-type: none"> ●肝臓や筋肉、脂肪などでインスリンがよく働くようにして血糖を下げます。インスリンの効きが悪くなっている人に使われます。 ●むくみが出る場合があります。症状がひどいようなら申し出てください。
ビグアナイド剤 (BG剤)	メトグルコ		<ul style="list-style-type: none"> ●主に肝臓での糖を作り出す働きを抑えて、血糖を下げます。インスリンの効きを良くする作用もあります。 ●ヨード造影剤の検査を受ける際は、この薬を飲んでることを伝えてください。
分解酵素阻害剤 インクレチン	グラクティブ		<ul style="list-style-type: none"> ●食事により血糖が高くなると分泌されるインクレチン（すい臓に働きかけてインスリン分泌をうながすホルモン）の血液中の濃度を高めることによって血糖を下げます。
	ジャヌビア		
	ネシーナ		

《注射薬》

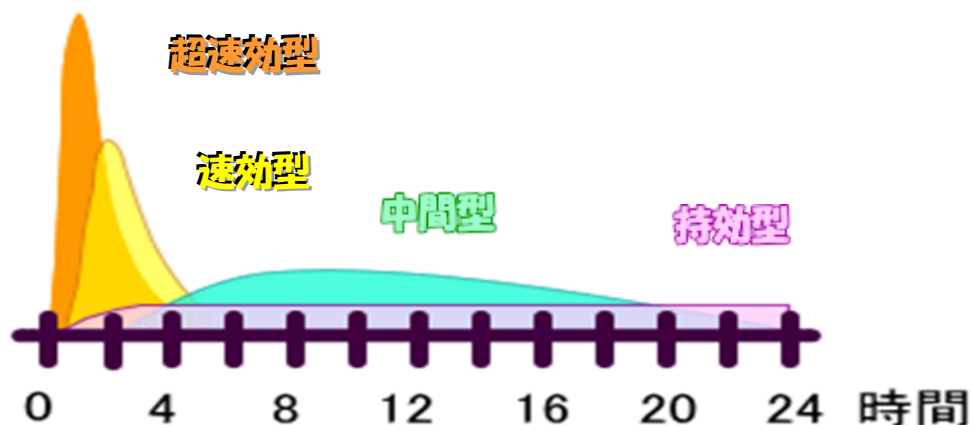
①インスリン注射

★インスリンとは




- ・インスリンは、すい臓から分泌されるホルモンです。血糖を下げる働きがあります。1型糖尿病の人や飲み薬などで効果が不十分な2型糖尿病の人、妊婦などに使います。
- ・お薬が効きすぎると低血糖を起こすことがあります。

★インスリン製剤について

作用時間により5つの種類（超速効型・速効型・混合型・中間型・持効型〔持続型〕）があります。



種類	商品名	作用発現時間	最大作用時間	作用時間
超速効型	ノボラピッド注フレックスペン 	10～20分	1～3時間	3～5時間
	ノボラピッド注インレット 			
	アピドラ注ソロスター 	15分以内	30分～1時間	
速効型	ヒューマログ注バイアル ノボリンR注フレックスペン 	約30分	1～3時間	約8時間
	ヒューマリンR注バイアル	30分～1時間		5～7時間
混合型	ノボラピッド30ミックス注フレックスペン 	10～20分	1～4時間	約24時間
	ノボラピッド50ミックス注フレックスペン 			
	ノボラピッド70ミックス注フレックスペン 			
	ノボリン30R注フレックスペン 	約30分	2～8時間	
	インレット30R注 			

種類	商品名	作用発現時間	最大作用時間	作用時間
中間型	ノボリンN注フレックスペン 	約1.5時間	4～12時間	約24時間
	ヒューマリンN注バイアル	1～3時間	8～10時間	18～24時間
持効型	レベミル注フレックスペン 	約1時間	3～14時間	約24時間
	ランタス注ソロスター 	1～2時間	あきらかなピークなし	約24時間


②インクレチン注射

★インクレチンとは

食事などで血糖値が高くなったときにすい臓に働きかけてインスリン分泌を促すホルモンです。

★インクレチン製剤について

2型糖尿病の人に使用するお薬です（インスリン分泌が少ない人には使うことができません）。

商品名	注意事項
ビクトーザ 	<ul style="list-style-type: none"> 胃の中にある食べ物の排出を遅らせる働きがあるため、食べ物が胃に長く残ることにより、お腹の張りや胃のむかつき、便秘や下痢が起こることがあります。 (この症状は打ち始めや増量の際に起こりやすいです) 単独では低血糖は起こしにくいですが、他の糖尿病薬と一緒に使用する場合は低血糖が起こりやすくなります。

《注射薬の取り扱いについて》

★自己注射について

- おなか（腹部）、二の腕（上腕部）、太もも（大腿部）のうち一箇所を決め、皮下に注射します。毎回2～3cm（指2本以上）ずらして注射するようにしましょう。毎回ずらして注射することで皮膚が硬くなるのを防ぐことができます（硬くなったところに注射をしても効果が十分得られません）。
- 使用した針は医療廃棄物になりますので必ず受診した科に返してください。

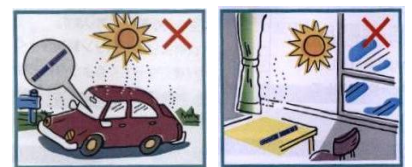
★保管方法

『温度が上がり過ぎても、凍らせても効果が無くなる』

- 未使用の注射薬は、冷蔵庫中の凍結しない場所で保存してください。
- 使用中の注射薬は、直射日光を避けて常温で保存してください。

★外出時、旅行時の注意

- 身体に密着しないように携帯してください。
- 炎天下の自動車に放置しないでください。
- 飛行機を利用する時は機内に持ち込んでください。



《低血糖について》

★低血糖とは

血液中のブドウ糖が少なくなりすぎた状態です。血糖値70 mg/dL 以下の場合を低血糖といいます。

★どんなときに低血糖は起こりやすいか

- ①食事を抜いた時、食事時間が遅れた時
- ②運動量が多すぎる時、インスリンの効果が強いつ間帯に激しい運動をした時
- ③薬の量が多すぎる時
- ④まれに他の薬を併用した時

★低血糖の症状



↓ ひどくなると…

眠気・異常行動・意識がなくなる・けいれん・昏睡

★低血糖が起こった時の処置法

- ・低血糖の症状を感じたら、ブドウ糖(10g)または砂糖(20g)を服用する。あめ玉・氷砂糖・チョコレートなどは緊急用には適しません。
- ・症状がなくても血糖値が70 mg/dL 以下の場合には、ブドウ糖または砂糖を服用しましょう。
- ・外出時には必ずブドウ糖または砂糖を持ち歩いてください。



ただし、グルコバイ・ベイスン・セイブルを飲んでいる場合は、砂糖ではなく必ずブドウ糖を服用してください。



ポイント

- ① 自分に決められた薬の種類・量・時間を守ってください。
- ② 低血糖に注意が必要です。
- ③ 薬を使っているからといって、食事療法・運動療法をおろそかにしないでください。
- ④ 他の医療機関にかかる時や、薬局で薬を買うときには、糖尿病であるということと、使っている薬の名前を教えてください。